

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 198号

平成20年6月25日発行 久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

e-mail: ce0026@pref. iwate. jp

～お知らせ～

普及センターホームページが移転しました。検索画面にて..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

○ 久慈地域園芸出発式開催（久慈広域） ○

6月17日、JA新しいわて久慈営農経済センターの園芸品目出発式が洋野町大野の野菜集荷場を会場に行われました。

今年はJAいわてくじがJA新しいわてと合併してから初めての出発式ということもあり、生産者、関係者合わせて100名を越える出席のもと盛大に行われました。式では各部会の代表から決意表明とともに販売額の目標が宣言され、今年と同センターの園芸品目を16億円にすることを確認しました。そして、テープカットの後、運送トラックの運転手へ花束が贈呈され、生産者の決意とともに出荷ケースを満載したトラック3台が首都圏方面へ向け出発しました。

平成20年度はほうれんそう販売額の10億円再達成や、菌床椎茸の生産拡大などが大きな目標となっています。原油高による資材価格の高騰や景気低迷による販売単価の停滞などの課題はありますが、ヤマセを生かした園芸産地として、生産者の創意工夫と関係機関・団体の連携により逆風を乗り越え、さらなる発展を目指していきます。



首都圏へ向け出発するトラック

○ ヤマブドウの栽培、販売の方向性を確認！（久慈広域） ○ 「平成20年度久慈地方ヤマブドウ振興協議会総会」を開催

5月21日、野田村えぼし荘を会場に平成20年度久慈地方ヤマブドウ振興協議会総会が開催されました。

今年は総会に先立ち、5月12日に管内北部を中心に発生した凍霜害への対応等について、現地研修会を実施しました。今年度の収穫がほとんど見込めないほどの大きな被害を受けた園地もあり、凍霜害に遭遇した園地の今後の栽培管理と病害虫の防除等について研修しました。

総会では、今年の事業計画として夏季管理、冬季剪定などの栽培研修会、園地相互巡回、先進地研修のほか、協議会として加工業者等へPR活動を実施することが承認されました。

また、久慈地方振興局として首都圏への販売促進活動や清涼飲料などの加工品開発への支援に取り組むことが紹介されました。

久慈地方の風土が育む「山ぶどう」を地域独自の素材として全国発信すべく、生産者と関係機関一体となって取り組むことが確認されました。



現地研修の様子

○自慢の豆腐を一工夫、地域の味を届けよう！(洋野町・久慈市)○

洋野町向田集落にある向田地域農産物生産加工組合(組合長村田修氏)は、平成14年に設立され、地域の大豆を使用した豆腐生産と販売を行ってきました。設立後5年が経過し、地元の豆腐料理を提供する場がほしいという組合員の希望があり、加工施設の隣に、豆腐料理を提供する直売交流施設を新設しました。

組合では新たな施設利用にむけて試作・検討会を重ねてきましたが、近隣の事例を参考とするため、6月11日組合員14名が参加し、久慈市山形町の成谷自然食の会(会長 岩脇ヨシエ氏)を視察しました。地元でとれる旬の食材を豊富に利用した料理に「素材を生かした味付けで盛付けもよい。」「昔からの味を提供している。」など、大いに参考になったようでした。

「豆腐を生かした地域の味を届ける」という新たな取組みについて、組合員の検討が続いています。今後、交流施設を核とした地域活性化が期待されます。



和やかに会食

○ ちょっと待った！ ○

— シゲさんの農薬の正しい使い方講座 —

家の中でアブやハチがぶんぶんぶん

母：どうしよう！

子：△△スプレー(家庭用殺虫剤)でシューッとやっつけよう！

ピンポン～ ○

庭のバラやツツジに毛虫が大発生、どうしよう

父：どうするべ！

子：△△スプレーでシューッとやっつけよう！

ブブーッ!!! ×

子：えっ？ じゃあ、どうすればいいの？

回答：○○家庭園芸用スプレー(農薬登録あり)(シゲさん)を使いましょう。

人が栽培している植物(穀物や野菜等の他、花、牧草、芝、樹木なども含む)は全てが「農作物」ですから、「農薬登録」された薬剤を定められた使用基準(ラベル)どおりに使わなければなりません。

○産直の名(迷)物を求めて○

「もち、だんご類」

岩手県北は、雑穀文化(ひえ、そば、小麦、大豆)の地域で、現在のように米が豊富な時代でも、雑穀を使ったたくさんの郷土料理が伝承されていますが、中でも、小麦を使ったみみっこもちやひゅうずやだんご類は、最近では、久慈地域のどこの産直でも目玉商品です。

大福等に比べると硬くて、初めて食べるときはびっくりしますが、いざ食べ慣れると、かむほどに味わい深く、中身が小豆あん、栗あん、しだみあん、味噌あんと様々で楽しみもあり、おやつに最適です。昔からの手技を受け継ぎなら、今もなお人気の「もち、だんご類」探しを、産直巡りの楽しみにしてはいかがでしょうか。



○ 技術情報 ○

◇◆ ほうれんそう ◆◇

1 ベと病対策

これからの作型は、べと病の発生が心配されます。ハウスの換気や防除を的確に行い、被害を防止しましょう。

この時期の主力品種「プリウス」は、べと病のレース1～5に抵抗性を持っていますが、油断は禁物です。ハウスの換気につとめ、過湿にしないように十分注意してください。降雨時も、ハウスを締め切らないようにし、両ツマ面は解放し空気がこもらないようにしましょう。薬剤による防除も、子葉期からの散布をおすすめします。

①子葉期 → ②本葉2～3枚時 → ③本葉5～6枚時
 ヨネポン水和剤 ランマンフロアブル アリエッティ水和剤
 (又は、ランマンフロアブル)

※ 多発が予想されるハウスでは、上記に替えて、播種時にリドミル粒剤2を使用してください。

2 高温対策

暑いときの安定生産は、ツマ面のビニールの開放がポイント!です。ハウスの側面ビニールだけでなく、前後のツマ面ビニールを開放し、できる限り換気に努めてください。

播種時と収穫時には、遮光幕を掛けてハウス内の温度を下げます(発芽を確認したら夕方外す)。資材は、ダイオシート(黒、遮光率80%)、ミラクール(白、遮光率70%)等を使います。

生育中に高温が続く場合は、寒冷紗(遮光率30%程度)で遮光しますが、曇天など日射量が少ない日が続く場合は、こまめに外して徒長しないようにしてください。

生育が止まりそうな場合は、本葉4枚の頃に葉水程度の散水を行います。(ただし、収穫7日前以降は絶対行わないこと)

◇◆ 水 稲 ◆◇

★ 生育状況のみで、茎数が十分確保できたら中干しを行いましょ。

★ 斑点米の原因となるカメムシが増えないように、水稻の出穂15～10日前(7月下旬が目安)までに出穂畦畔等の草刈りを行いましょ。

★ 7月下旬には、穂いもち予防粒剤を施用しましょ。

1 水管理(中干し、深水かんがい)

(1) 6月末～7月初めに茎数が1株当たり20～25本位確保したら、中干しを行いましょ。水稻の健全な生育促進の他、秋作業も楽になります。

(2) 中干し後は徐々に水を入れて、幼穂形成期には水深が4～6cm(前歴深水かんがい)、減数分裂期には水深10cm程度の深水にします。特に気温17℃以下の低温が予想される時には、水深15cm以上にしましょ。

2 斑点米カメムシについて

斑点米の原因であるカメムシ類の増殖や水田への侵入飛来を防ぐため、転作牧草、水田畦畔、農道等の雑草を地域一斉に刈取りましょ。

草刈時期は、水稻の出穂15～10日前(7月下旬が目安)です。

3. いもち病

(1) 「かけはし」や「あきたこまち」等いもち病に弱い品種では、穂いもち対象の予防粒剤を忘れずに施用しましょ。

(2) 葉いもちが発生した場合には、葉いもちの予防粒剤(箱施用・本田水面施用)散布の有無にかかわらず、直ちに粉剤や液剤で茎葉散布してください。

◆◆ 花 き ◆◆

★りんどう：褐斑病防除の徹底

★小ぎく：白さび病防除の徹底

1 りんどう

H18に続きH19も褐斑病の発生が見られました。褐斑病の感染時期は6月下旬から7月下旬までです。梅雨と重なり定期的な防除が難しい時期ですが、定期防除に努めましょう。

病害虫の発生は全般に少なめですが、圃場によってはハダニ類の発生が見られます。梅雨明け後高温乾燥条件が続くと一気に増殖しますので、梅雨明け後は特に注意してください。

梅雨時期の生育はかなり早いので、ネットの引き上げが遅れないようにしましょう。

圃場が乾燥する場合はうね間かん水を行ってください。

2 小ぎく

白さび病がまん延する時期です。定期防除を徹底するとともに、下葉を取り除くなど耕種的防除も併せて実施しましょう。下葉を取る時期の目安は開花1ヶ月前で、地際から20cm程度まで取り除き風通しを良くします。

梅雨明け以降はハダニ類、着蕾期以降はアザミウマ類の防除を徹底しましょう。特に、アザミウマ類は膜割れ期前が重点防除時期となります。

◆◆ 畜 産 ◆◆

暑熱対策を講じ、牛の採食量や乳量の低下を防ぎましょう！！

これから迎える暑熱期は、牛のトラブルも発生しやすくなります。暑熱対策は暑くなってからでは手遅れです。暑くなる前に出来ることから確認し、対策を講じましょう。

◇環境対策

- ① 畜舎の窓や戸を開放し、換気・通気を行いましょ。また、風は熱放散が大きい頸部や肩に当てるようにし、体熱が蓄積される夕方から夜間にも送風を継続させましょ。
- ② 直射日光や西日が当たる畜舎では、遮光ネット等を設置して強い日差しを遮りましょ。
- ③ 低温で新鮮な水を常に十分飲めるようにましょ。
- ④ 牛体の毛刈りをすると、熱の放散がしやすくなり、暑熱ストレスを軽減できます

◇飼料給与対策

夏は暑さに加え、飼料を摂取するとルーメン発酵により体温が上昇し飼料を食べなくなります。特に乳牛では、粗飼料の採食量が減ることのないよう以下の点に注意して飼料給与を行いましょ。

- ① 粗飼料は良質なもののほど採食・反芻・ルーメン内発酵のスピードが短時間となり、ルーメンの熱生産量が少なく体温上昇を防げます。
- ② 濃厚飼料の割合が高くなるとルーメンアシドーシスを引き起こしますので注意が必要です。分離給与では、濃厚飼料の給与回数を分けるようにましょ。
- ③ 高温時には、発汗や脱毛などに伴い、カリウム(K)、ナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)などのミネラルの要求量が増えますので、通常より1～2割程度増給ましょ。
- ④ 飼料は涼しい時間帯に給与するとともに、給与回数を増やして採食量低下を防ぎましょ。

◆◆ マイマイガの防除対策 ◆◆

今年、各地で多発しているケムシは、マイマイガ類です。サクラやカエデ、ツツジなど広葉樹の害虫で、イネやほうれんそうに発生しても大量に食害することはありません。庭木や街路樹に多発した場合は「樹木」で農薬登録がある殺虫剤（トレボン乳剤4,000倍、ディプテックス乳剤1,000倍など）で防除ましょ。

まわりからイネやほうれんそうに侵入してくることもあります。部分的な発生だったり、数が少ない場合は、農薬を使わず手で取り除くようにましょ。実害がある場合は各作物に使える農薬で、他害虫との同時防除を実施ましょ。